

東日本大震災を 経験して



しばさわひろむ

柴澤大夢さん

平成5年5月21日生まれ。
宮城県石巻市出身。5月10日から
久遠塾の講師として勤務。

震災当時、私は高校生だったのですが、家が海から遠く離れていたことで被害はほとんどありませんでした。ですが、電気がつかなくなったり、食べ物が届かなかつたりといったライフラインは完全に止まりました。石巻市で被害があったのは主に沿岸部です。地震が起きた一週間後に、友だちと自転車で街中を見に行ったのですが、津波による被害があまりにも大きかったため、途中で引き返しました。

津波で同級生を四人亡くしましたが、そのうち二人は同じクラスでした。亡くなったのを知ったのは震災が少し落ち着いた一カ月後のことです。自分の知り合いを災害で亡くすのはとてもショックだし、つらいことです。白糠町では、児童生徒が頻繁に避難訓練をしていると知り、とてもいいことだと思いましたが、海の近くに山があり、さらには避難所や備蓄品が整備されているというのも安心できます。また、海拔や地上高の標識をよく見かけますが、これまで自分が暮らしていた石巻市や佐渡島にはありませんでした。白糠

は防災意識が高い町だと思えます。海のある町なので津波の怖さがありますが、きちんと避難をすれば大丈夫だという安心感もあります。

避難時の感染症対策

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中であっても、災害は待ってくれません。町では、いつ災害が起きても最善を尽くせるように準備をしています。

備蓄品は、指定避難所で概ね3日間を過せる最低限必要な資材に加えて、パーティションや消毒液などを整備しました。町としては、できる限りの体制を整えています。が、個人で非常持ち出し品（防災リュック）や非常食等を用意しておくようお願いします。また、感染症対策のため体温計、消毒液、マスクを持参できるようにしておいてください。

みんなで防災力を高める

大規模災害の発生に備えて、避難訓練に取り組んでいる企業や施設、町内会などが多くあります。災害はいつ起こるか分かりませんので、夜間や冬季、雨天時など、過酷な環境を想定した訓練も必要です。



庶路学園では、地域の町内会と合同で防災訓練を実施しています。訓練では思考を重視したHUG(避難所運営ゲーム)も行われました。

平時のうちからあらゆる事態を想定し、訓練を重ねることによって、これまで気が付かなかった想定外の事象や避難行動で必要なことを発見することができ、地域の防災力を高めることができます。

また、被害を最小限にするためには、巨大地震・津波の危険性を想定し、日頃から一人一人が災害に備えておくことが大切です。防災力、防災意識を高めて、災害に強いまちを築いていきましょう。

防災に関する問い合わせは、役場地域防災課地域防災係 ☎2-2171（内線222）まで。